【様式 02】高大連携公開講座シラバス

＊科目 No.	25201

1．開設大学	安田女子大学　文学部 日本文学科		開催方法 （キャンパス・施設）		■対面（　本学　） ~~□オンライン（同時・録画）~~	
2．科 目 名	昭和の詩歌句を読む ―感受性の大切さ― 江戸時代の笑話本を知る　―好まれた笑話と出版年の特定について―					
	学問分野	番　　号	11	名　　称	日本近代文学・日本近世文学	
3．担当教員	外村　彰・島田　大助（文学部　日本文学科）					
4．開講期間（曜日） 開講時間	令和 5 年 8 月 4 日（金）～ 令和 5 年 8 月 7 日（月） 8/4（金）：12 時 30 分 ～ 14 時 00 分　（90 分×1 回） 8/7（月）：12 時 30 分 ～ 14 時 00 分　（90 分×1 回）					
個別開講日	1 回目 8/4	2 回目 8/7				
5．募集定員	40 人					
6．科目内容・ 授業計画	**1. 昭和の詩歌句を読む ―感受性の大切さ―　8 月 4 日 12:30～14:00（外村 彰）** 題目に記したように、昭和期に発表された詩・短歌・俳句の鑑賞を通して、日々を生きるうえで大切な「感受性」のありかをさぐる講義を実施します。 採りあげる予定の作品について述べます。 詩では、まず茨木のり子「汲む」で初々しさの大切さについて考えてもらいます。 次に金子みすずの童謡詩「犬」を読み、他者の心に寄り添うことについて考えたいと思います。 ３作目は八木重吉の「心よ」を読みます。短い、純粋なあこがれの心象をかたどった詩です。 それぞれ、ゆたかな感受性をもって読み解いてゆきたい詩です。―― さて短歌と俳句は、このごろ教科書として『昭和の文学を読む』（仮題）を執筆した際に編集した、各 20 首＋各 20 句を紹介し、それぞれのなかから任意の数作を鑑賞する予定でいます。 たとえば短歌なら前川佐美雄の、 一傘（いつさん）の樹陰（じゅいん）にわがねるまつぴるま野の蝶群れて奇（く）しき夢を舞ふ 俳句なら種田山頭火の、 酔うてこほろぎと寝てゐたよ などを。――やはり感受性を駆使して、これら作品の魅力を味わう機会としたいと考えています。 **2. 江戸時代の笑話本を知る ―笑話の内容と出版年の特定について―** **8 月 7 日　12:30～14:00（島田 大助）** この講義では、18 世紀後半に江戸で出版された草双紙仕立笑話本『落話京鹿子』を取り上げて、お話しします。 『落話京鹿子』は、江戸時代の絵師、鳥居清経が、既存の笑話を利用して創作した笑話本です。どのような笑話を江戸の市井で生活した人々が面白いと感じていたのか、考えてみます。また、このような笑話本が、いつ出版されたのかを見分ける方法についても、話したいと思います。					
7．受 講 料	無料					
8．別途負担費用	（テキスト代・実習料等） なし					
9．開講条件※1 あり・ない	①　最少開講人数（　　人）定員超過の不許可は選考により決定					
	②　不許可・不開講通知日：6 月末まで					
10．その他特記事項	受講者についての制限事項、オンライン（同時・録画）の使用ソフト、受講時の注意など 女子に限る					
11．開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/　開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。
コロナ禍の影響により、対面講座の不開講・休講になる場合があります。